

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～県伊祭が近づいてきましたが・・・～

いよいよ県伊祭が近づいてきました。この通心は2021年度の第8号でも紹介したお話です。

学校行事の意味・意義について・・・今回紹介する話は、沖縄県宮古島にある県立宮古高校のH27年度の合唱祭のできごとです。あるクラスの35人全員がサングラス姿で登壇し、尾崎豊さんの「15の夜」を熱唱しました。全員がサングラス姿だったので、一瞬会場にどよめきがあがりました。見た目だけでなく、尾崎さんをまねてセリフを語る指揮の男子生徒のパフォーマンスもあって、会場は大いに盛り上がりました。

**しかし、彼らはファッションのためにサングラスをかけたわけではなかったのです。**この行動は、クラス内の、ある一人の女子生徒を思っただけのことだったのです。

その女子生徒は、中学2年生だった2011年に子宮頸がんワクチンを接種。その副反応とみられる症状で光に敏感になり、サングラスが手放せない生活になりました。次第に頭痛や虚脱感といった異変があらわれ始め、高校に入ってから手足のしびれなどで倒れ、保健室に運ばれることが増えました。体調不良や入院もあって、なかなか学校へ通えなくなり、登校できても保健室で過ごすことが多くなりました。

彼女の通う宮古高校では毎年、体育祭、文化祭、合唱祭のどれかひとつを順番で開催しています。この年は合唱祭の年でした。当初、女子生徒は欠席するつもりでしたが、クラスメートに誘われて練習から参加しました。放課後の練習を終えた後

**「サングラスで本番出るのは嫌だな」**

とこぼすと、隣にいた別の生徒が

**「じゃあ、みんながサングラスで出たらいいんじゃない？」**

と声をかけました。すると周りの生徒たちも

**「いいね、曲の雰囲気合ってるし」**

と応じました。

しかし、女子生徒はためらいました。実は女子生徒はこんなふう考えたのです。「きっとサングラスつけない人もいるはず。それに、持ってない人は買わなきゃいけない。私のために無理しないで」その思いをみんなに告げると、仲間たちはこう返してくれました。

**「大丈夫だよ。合唱祭終わったら絶対に「やってよかった」ってなるから」**

これを受け、担任の女性教諭は学内で事情説明に回りました。女性教諭がしたことはこれだけ。女子生徒を練習に誘ったのも、サングラスをつけようと動いたのも、全部生徒たち。リーダーがいるわけでもなく、おとなしいと思っていた生徒たちですが、しっかり成長していました。

その後、クラスの仲間は、両親や祖父母から借りるなどして、当日は全員がサングラスを持参。登壇すると一瞬どよめいたものの、曲が終わると会場は大きな拍手に包まれました。

終わった後、クラスメートと握手しながら、こう声をかけられていました。

**「ありがとう、おかげで一つになれた。最高のクラスになったね」**

その言葉を聞いた女子生徒はこの一言で、

**「大変だったことが全部チャラになった」と思ったそうです。また彼女は、**

**「みんなと歌って超楽しかった。楽しい思い出がつくれて良かった」**

と振り返っています。



県伊祭についても**ゴールは決まっています**。「いろいろな制限があって・・・やりたいことができなくて・・・なかなか時間がとれなくて・・・練習が上手くいなくて・・・準備が予定通りに進まなくて・・・トラブルもあって・・・**大変だった！・・・だけど・・・**」

**また一つ高校生活のいい思い出ができた！みんなの協力で楽しかった！クラスが一つになれた！・・・**

**みんな！ありがとう！」**です。

そんな県伊祭になることを願っています。